

形態実習 I (骨)

Practice of Human Morphology I: Osteology

実習責任者：解剖学 特任教授 平田 和明

1. 実習概要・学習内容

人体の正常構造の習得を目指す一環として、人体解剖学の一分野である「骨学」の講義と実習を行う。講義で全身の骨格の概要を学び、それに続く骨学実習で実際に人体骨格標本を観察し学習の理解を深め、向後の基礎医学・臨床医学学習の基盤となる学力を身につける。

2. 到達目標

- 1) 人体の骨格および骨の重要な部位を同定・把握し説明できる。
- 2) 骨の相互的位置関係を理解し説明できる。
- 3) 重要な関節の構造を理解し説明できる。
- 4) 主な筋の起始と停止を同定・把握し、その筋の機能を説明できる。

3. 学習上の注意点

事前に配布されるプリントと教科書・参考書で、予習を十分行い、骨学実習に臨むこと。4回の実習を行い、5回目は実習室において実習グループごとに口頭試問を行う。骨の学習内容は非常に多くの項目を含み複雑であるから、5回の実習回数は十分とはいえず、しっかり予習と復習を行い学習を進めることが重要である。

4. 教科書・参考書

教科書：『骨学実習の手引き』（南山堂）

参考書：

- (1) 『岡嶋解剖学』（杏林書院）

（書評）伝統的な詳しく記述された系統解剖学書であり、人体解剖学を学ぼううえで必須の書籍である。索引が充実しており調べものにも向く。

- (2) 『グレイ解剖学』（エルゼビア・ジャパン）

（書評）詳しく優れた局所解剖学書（胸部、腹部などの部位ごとの記述）である。第2学年の解剖学実習、高学年の臨床解剖学等の学習にも適している。図が美しく、長く使える良書である。

- (3) 『ネッター解剖学図譜』（丸善）

（書評）図譜集としては定番である。解説はないので、これだけでは勉強できない。

(4) 『解剖学講義』（南山堂）

（書評）バランスの良い良書である。図が適度にあり、説明文の量も適当である。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	70 (%)	前期試験期間中に実施する。
口頭試問	1	10 (%)	実習期間中に実施する
レポート	1	5 (%)	口頭試問後に提出する。
ポートフォリオ	1	5 (%)	実習期間中に提出する。
授業態度	—	10 (%)	

※当実習では学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
解剖学 (人体構造)	特任教授	平田 和明	平日 12:30~13:30	医学部 5 階 解剖学講座	3517 (内) 講座秘書
同上	准教授	長岡 朋人	同上	同上	nagaoka
同上	講師	星野 敬吾	同上	同上	hoshino
同上	講師	水嶋 崇一郎	同上	同上	s_mizu
同上	助教	清家 大樹	同上	同上	hseike

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略